



太田川河川事務所

Gogi通信

No.125

サンフレッチェ広島の高萩選手を一日事務所長に迎えて!



当日の様子

集合写真 左上:白島小学校 4年2組 右下:白島小学校 4年1組

質問コーナー



質問に答える高萩選手

防災訓練が終わり、児童から“高萩所長”への質問コーナーで「サンフレッチェは優勝できますか?」という質問がありました。折しもこのとき2位のサンフレッチェは2試合を残し、最低でも連勝が絶対条件という状況のなか高萩所長は「あきらめていません、絶対優勝します。」と力強く話しました。

結果サンフレッチェ広島は12月7日に優勝したことはみなさんご存知の通り。防災訓練に参加した児童や関係者全員は「可能性があるかぎり絶対あきらめない」という大切なことを教わりました。



今後も多くの方に事務所の取り組みや、防災活動の周知するため様々な方の協力を得つつ、このような取り組みを行っていきたいと考えております。

最後の挨拶では、「災害は起こるもの、備えが出来るよう、こういう活動を通じて多くの方に広めて行きたい」と言う心強い発言を頂きました。

今年も太田川河川事務所では、11月25日に「土木の日記念行事」の一環として、サンフレッチェ広島の高萩洋次郎選手を迎えて「一日事務所長」を実施いたしました。当日は総合学習の一環として、太田川の歴史について勉強され、出前講座も実施した白島小学校の4年生64名を招待し、高萩所長を災害対策本部長とした防災訓練を実施しました。

南海トラフ地震規模の地震津波対策訓練を実施



地震津波対策訓練の様子

中国地方整備局では大規模地震やそれに伴う津波に対して、迅速かつ正確な災害対策業務を遂行することを目的とし、管内二斎に11月13日に地震津波対策訓練を実施しました。

太田川河川事務所においては、今年の5月に広島県から発表された津波の浸水想定区域図を参考に津波の影響範囲などを訓練に取り入れました。

訓練は、8時に震度6弱の地震が発生し、その後広島湾に海拔4m程度の津波が到達、堤防の一部が決壊し浸水被害が生じたという設定で実施しました。

訓練の内容について

ては、水門等の警報設備を利用して注意喚起や太田川放水路の緊急河川敷道路の使用も考慮した施設の点検・道路の啓開などを盛り込みました。

今回の訓練を活かして、実際の災害についていきます。

小瀬川で水質事故対策訓練を実施



水質事故対策訓練の様子

太田川水質汚濁防止連絡協議会・小瀬川水質保全連絡協議会は、河川等で油流出など水質事故が発生した場合に、被害を最小限に食い止めるため関係機関が密接に連携をとり迅速かつ適切な対策を行うことが重要である

ことから、10月22日小瀬川で、水質事故対策訓練を実施しました。

訓練では、水質事故対策に携わる、国土交通省、広島県、山口県、大竹市、岩国市、廿日市市、江田島市、和木町、府中町、安芸太田町、北広島町、柳井地区広域水道事業団、岩国地区消防組合、広島高速道路公社本部、大竹警察署、岩国警察署、広島高速道路公社の約70人が、河川に油が流出した場合を想定した「オイルフェンスの設置・撤去」と「ロープワーカー」、原因物質が不明な場合を想定した「簡易水質調査」を実施し、水質事故に対する意識の向上と事故発生時の初動対応を確認しました。

広島西部山系砂防工事安全施工技術研究発表会



受賞者一覧

	研究論文題名	会社名	発表者名
最優秀賞	「現場の工夫による工期短縮の取り組みについて」	格正建設(株)	田村 大三
優秀賞	「地域住民に対する砂防工事のイメージアップについて」	広電建設(株)	熊谷 伯光

平成25年11月28日に太田川河川事務所において「広島西部山系砂防工事安全・施工技術研究発表会」が開催されました。この発表会は砂防工事の施工を行っている業者さんに各現場で安全対策や技術上努力・工夫されたことを紹介していただき、お互いに議論し切磋琢磨することにより砂防工事の現場における安全や施工技術の向上を図ることを目的とし、毎年開催されているものです。

今年度は6名の方が発表され、豪雨のさなか行った緊急対応や、保育園児を招いた見学会の開催など、地域に溶けこんだ工事の実施について発表がありました。

「大竹和木かわまちづくり」

計画登録書を伝達



平成25年12月24日に、広島県と山口県の県境を流れる小瀬川で作成された「大竹和木かわまちづくり」計画の登録書を、広島県大竹市長、山口県和木町長へ伝達しました。

この計画は、平成21年度に策定された「かわまちづくり制度」に基づき、大竹市長、和木町長が作成。平成25年11月12日に全国5箇所の1つとして新規登録されました。特に山口県では初めてとなります。

「かわまちづくり制度」とは、地域づくりに資する景観・歴史・文化と、水辺空間を繋ぎ、水辺の整備や利活用を促進する施策を地方公共団体や地元住民が連携して作成。国土交通省水管理・国土保全局長が登録することで、河川管理者が、良好なまちと水辺



山口県和木町長への伝達



広島県大竹市長への伝達



整備状況

が融合した

空間形成の円滑な推進を支援、

協働するものです。

今後、太田川河川事務所が
整備する河川管理用通路を、

大竹市および和木町が周辺施設と一体となった散策ルートや
ウォーキングロードとして活用

することことで、両県の地域交流の場となることが期待されます。



排水機場完成予想図

【全体計画】

実施内容：排水機場・導水路・吐出橈門・地盤改良・
排水機場機電設備・用地買収等

全体事業費：3,000百万円 事業期間：H25～H29

【平成25年度】

実施内容：地盤改良・県道切替 等

平成17年9月（浸水戸数17戸）、平成22年7月（浸水戸数30戸）に内水はん濫による浸水被害が発生しているため、国、広島県、広島市が協力し、排水機場の増設、河川維持改修等のハード対策や、流域における流出抑制対策、低地における土地利用規制等のソフト対策を重層的に組み合わせ、総合的な内水対策を推進。増設ポンプは8m³/s(4m³/s×2台)で、既存の4m³/sと併せて、12m³/sの排水能力となります。

平成25年度より工事着手し、平成29年度の完成に向け、鋭意施工しています。

太田川水系矢口川総合内水緊急対策事業起工式

平成25年11月23日に矢口川総合内水緊急対策事業の起工式を地元及び関係機関の参加により挙行しました。

式では、中国地方整備局を代表して井植田所長による事業説明に続き、来賓の

河井衆議院議員や地域代表の前田学区町内連合会会長に祝辞をいただき、その後、国・県・市の関係議員及び関係機

関による鍛入れを執り行い、事業着工を祝いました。



鍛入れの様子



『広島都市圏の水瓶』 ~160万人の生活や社会を支える水源地~

高瀬堰を見てみよう!

《概要》

- 高瀬堰は、太田川の洪水を安全に流下させ、広島都市圏の水道用水・工業用水を安定して補給することを目的に、昭和50年に完成しました。現在、39年目の働きをしています。
- 見学では、普段は高瀬堰周辺の立入を制限している箇所や、冬場でないと見ることのできない施設(時期限定)などをご案内します。



上空からの高瀬堰



時には
こんな姿
にも!!



高瀬堰の地図



魚道ゲート



船道レギュレーター



制御室

● 高瀬堰見学コース例

いつでもコース例

堰を制御する部屋や建設時の紹介
合わせて 約60分

お天気コース例

高瀬分室から高瀬堰を歩きながら紹介
往復約800m 約60分

冬期限定コース例

冬場のゲートの塗り替えに合わせてゲートの中へ
所要時間 約90分

○見学時期：随時(ご連絡は下記まで)

○問い合わせ先：管理第二課 TEL／082-873-2884

河川協力団体募集

河川法に河川協力団体制度が創設されたことを受け、太田川水系と小瀬川水系の国が管理する河川管理区間(ダム湖含む)において、右記のとおり河川協力団体を募集します。



○募集期間：平成26年1月7日～平成26年2月14日

※詳しい募集内容については、太田川河川事務所ホームページをご覧下さい。

○問い合わせ先：管理第一課 TEL／082-222-9248

◆河川協力団体制度とは、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行う民間団体等を支援するものです。

◆河川協力団体としての活動を適正かつ確実に行うことができるとして認められる法人等が対象となり、河川管理者に対して申請を行います。

申請を受けた河川管理者は、適正な審査のうえ、河川協力団体として指定します。

◆河川協力団体は、以下のよう活動を行います。

- ① 河川管理者に協力して行う河川工事又は河川の維持
- ② 河川の管理に関する情報又は資料の収集及び提供
- ③ 河川の管理に関する調査研究
- ④ 河川の管理に関する知識の普及及び啓発

